

学校名	北海道標茶高等学校
-----	-----------

学校関係者
学校評議員
5 名

1 学校教育目標

1 探究	主体的で協働的な探究により、質の高い学力を身に付け、地域社会の発展に資する生徒を育てる。
2 飛躍	新たな時代において、不撓不屈の精神を以て、自己実現を目指すことのできる生徒を育てる。
3 共生	「人」、「自然」、「食」に関する美学を通して、生命を尊び、多様性を認め合い、豊かな人間性を持った生徒を育てる。

2 重点目標

1	文化理解、地域環境、農業・食品に係る系列事業、並びに社会と連携したキャリア教育の内容充実を図り、いのちの学びから、主体的に自己の在り方、生き方を考える能力を育む。
2	全ての教育活動において主体的・対話的で深い学びの視点からの学習を充実させると共に、ICTの活用による協働的で個別最適化された学習指導を推進する。
3	習得した様々な知識を活用し、課題を解決する成功体験をとおして創造性を身に着けると共に、様々な手段を用いて周囲に伝える表現方法や技能を身に付けさせる。
4	地域創生に資する高等学校として、地域社会と連携した教育活動の充実を図り、特色ある学校活動を広く、分かりやすく発信する。
5	コロナウィルス感染症拡大防止をはじめ、適切な危機管理に努める。
6	教職員が生徒と関わる時間を確保し、心身の健康を保つことができるよう働き方改革を推進する。

3 経営方針(目指す学校像)

1	本校の総合学科の理念を踏まえ、主体的に対話的な深い学びと多様な進路実現を保証する教育環境の整備に努める。
2	学校及び地域資源を活かし、社会との連携・協働による文化、自然環境、食を特色とした魅力ある社会に開かれた教育課程の運用に努める。
3	学校を軸とした地域（創路圏域）づくりを実現する高校として地域社会に評価され、北海道の高校として存在感を示す教育実践に努める。
4	共生社会の形成に向けて支援を要する生徒のニーズに応じた指導の充実を図るとともに、家庭、地域、関係機関等による連携体制の整備を進める。
5	生徒や保護者、地域との共助による信頼関係を築き、人間関係や組織運営を円滑に進めるとともに、危機管理事業に適切に対応することで、信頼される学校づくりを推進する。

4 自己評価結果

評価基準 【A：達成している(4.0～3.25) B：おおむね達成(3.25～2.5) C：やや不十分である(2.5～1.75) D：不十分である1.75～1.0】

5 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ

評価基準 【A 適切な評価である B ほぼ適切な評価である C やや不適切な評価である D 不適切な評価である】

(2) 改善に向けた取組の適切さ

評価基準 【A 十分な効果が期待できる B ほぼ十分な効果が期待できる C あまり効果が期待できない D 全く効果は期待できない】

継続的重点 ■発展的重点		自己評価		学校関係者評価		
領域	評価項目	達成状況	課題度	改善・充実の方策	(1)自己評価の適切さ	(2)改善に向けた取組の適切さ
A 学習指導	□社会で自立して生活する上で必要な基礎・基本的な学力を身に付けさせることができたか。	B (2,9)		朝学習の実施。到達度テスト(年2回)、学力テスト(年度末)の活用。習熟度別授業の充実。	A	A
	□生徒の主体性を育むために、各教科で対話的で深い学びの実践と評価の工夫に関する取組が進められたか。	B (3,2)		学習方法と評価方法に係る教員研修の充実。公開授業や教科指導訪問の活用。		
	□個別の課題やスタディサプリ等の学習機会を活用し、自学習慣の定着を促すことができたか。	B (2,8)		スタディサプリの活用推進。学習指導に係る各種研修資料の配布とデータ共有。朝学習との連動した学習指導の充実。		
	■端末一人一台導入による授業方法の研究、運用ルールの策定等、活用準備が整ったか。	B (2,9)		学力の保証のための活用推進。校内での使用方法の検討と活用の充実。		
	■新教育課程表が完成し、開かれた教育課程の実施上の課題を捉えた上で、運用環境を整えることができたか。	B (2,9)		評価方法の検討。シラバスへの表記方法の検討。		
	学校関係者の意見		・購入した端末が十分活用されるよう研修してください。 ・オンライン授業などによる学習の保証は保護者目線でも大切です。今後も活用してください。 ・標茶高校らしい授業が毎年行われていることは、新聞等でもよく目にします。地学連携会議などの組織を活用し継続的に特徴ある授業ができる体制を維持してください。			
B 生徒指導	□情報活用マナー等に関する啓発事業の実施と、効果的な事後指導を行うことができたか。	B (3,1)		SNSマナー講座等の継続的な実施。	A	A
	□いじめに至る前の人間関係にも配慮しながら、いじめの早期発見に努め、解決することができたか。	B (3,2)		朝の打ち合わせやファイル共有を活用した生徒情報の交流機会の充実。支援委員会及びコーディネーターの活用。		
	■定期的に生徒理解研修会を実施し、保護者や関係機関との連携により支援的な生徒指導と家庭教育の支援を行うことができたか。また、ピアサポートを推進し、生徒同士の支援体制を整えることができたか。	B (3,1)		生徒理解研修会の継続。家庭訪問や三者面談の積極的な実施。		
	■様々な指導において、その理由を明確に説明し、生徒自身の納得の上で自ら改善する姿勢を示させることができたか。	B (2,9)		服務規律の保持をした生徒指導研修。関係機関や専門家と連携した組織的な生徒指導の推進。		
	学校関係者の意見		・SNS等での誹謗中傷やいじめは大人が見えない部分などで使い方の指導を継続して実施してほしい。 ・個に応じた生徒指導を実施していると聞いています。今後も継続してほしい。 ・先生方と生徒のコミュニケーションは良くとれていると思います。家庭との協力も進めてください。			
C キャリア指導	□進学希望者には第一志望校への合格率の向上、就職希望者には職業理解に基づく就業後定着率の向上を図る指導ができたか。また、進路希望未定者に対して、個別に丁寧な支援を行うことができたか。	A (3,4)		進路に係る組織的な個別相談と外部講師による体験の説明会の機会充実。推薦会議を活用した個別指導の充実。総合的な探究の時間で学んだことを積極的に進路活動に活かす指導。	A	A
	□「産業社会」から「地域探究」、「課題探究」への系統性を生徒に理解させ、一層のキャリア教育の充実が図られたか。また、「課題探究」では指導方法の工夫により探究性の深化を図り、生徒の達成感を得ることができたか。	B (3,3)		探究テーマ設定の段階から、地域の方に参加いただく機会を、地学連携会議を活用して設定。社会を意識した教育活動を、授業にも反映させていく。		
	■CG部が教務部等と連携し、系列・教科・分掌等に対して積極的にコーディネートするとともに効果的な事業改善を図ることができたか。	B (3,3)		分掌や教科を横断的に取り組み、教育活動を積極的に推進する。		
	学校関係者の意見		・標茶高校の生徒は挨拶や町のお手伝いなど、大人と一緒に良く活動してくれます。また、自信を持って意見を伝えてくれ立派です。これからも、地域の大人たちと関わる機会を継続してください。 ・推薦や総合型選抜で、国公立大学に毎年複数合格しているのは立派ですし、進学後も伸びていると聞きます。生徒の主体性を育てるという目標は良いことです。 ・進路実現に向けて教養的な学力を伸ばしてください。			
D 健康安全指導	□生徒に関する情報共有が図られ、特に困り感を持つ生徒への生徒指導・特別支援・教科指導等に反映することができたか。	B (3,2)		多様な生徒に対応した指導の充実を図るため、教職員の情報共有を積極的行う。	A	A
	□心身の健康・安全に関する講習会等を実施し、生徒の健康に関する安全意識を高めることができたか。	B (3,2)		1日防災教室や避難訓練、防犯教室、薬物乱用防止教室、救急救命講習、性に関する講演等、外部の専門家と連携した事業を継続する。新1年生には特に、成人年齢引き下げに伴う消費者安全教育や人権教育を意識的に実施する。		
	■災害、犯罪等に係る安全教育があらゆる場面で実施され、生徒の危機管理に係る適切な判断力と行動力を養うことができたか。	B (3,2)				
	■コロナ感染症拡大防止策が適切に実施されたか。	A (3,3)		継続的な感染防止対策と休みの多くなった生徒への学力保証に関わる、オンラインを活用した学習指導の環境整備と推進。		
	学校関係者の意見		・コロナ感染症が拡大しなかったことは、学校の取り組みの成果だと思います。今後も対策を続けてください。 ・多様な個性を持った生徒がのびのびと学校生活を送っている様子を見ると線セ型の指導の賜物だと思います。今後もよろしくお願いいたします。			
E 信頼される学校づくり	□「緊急時対応マニュアル」による危機管理研修を実施し、特に実習時の安全対策と危険箇所の早期発見を行うことができたか。	A (3,3)		施設・設備の安全点検の継続と危険箇所の円滑な改善。実習時の生徒への心得指導の徹底と指導教員の意識向上。	A	A
	□本校の教育資産を活用して、地域の方々との交流場面を充実させ、地域関係団体、他学校等と連携し、地域を支援・活性化することができたか。	B (3,1)		地学連携会議を活用した事業を整理、活用し、学びの幅を広げ、教育活動を充実させる。		
	■生徒、保護者、地域の理解の下、業務の改善と合理化・分業化、ワークライフバランスの意識改革等、無理なく働き方改革が促され、職員の月超過勤務時間を45時間以内にすることができたか。	B (2,8)		勤務時間の縮減と心身ともに健康な教職員の体制づくりを図る。		
	■広報において、特に町内外の中学校へのPRが推進されたか。	B (3,2)		標茶高校フェスの継続的な実施と効果的なPR方法の検討。管内、管外の積極的な中学校訪問の実施。		
	学校関係者の意見		・今年度、生徒募集に変化を加えたり、中学校訪問をした成果が出ていると思いますが、町内、管内との中学校へさらなるPRを進めてください。 ・生徒の地域での活動の拡大を教職員の負担軽減を図りながら行うため、地域との連携を密に測りながら取り組んでほしい。 ・勤務時間の縮減を図りながら教育活動の充実を図る難しさは理解する。今後、学校と地域と連携して活動を精査していくことも重要である。			
F 組織運営	□各事業の目的を教職員全体で共有し、部長主任、担任等への業務の集中化を防ぐ分業体制は推進されたか。	B (2,8)	△	多忙期における分掌外業務への協力体制の確立。管理職による機動的な組織運営。	A	A
	■校内事業が分掌内で検討され、PDCAの検証によりその効果を見極めて見直しが行われたか。	B (3,3)		積極的な見直しを行い、行事や事業の精選を行った。次年度、今年度の評価を行い更なる精選を行い、スリム化を図っていく。		
	■会議、打合せ等は積極的かつ建設的に行われ、発案された議案が民主的に議論され、職員会議において共通理解が図られているか。	B (2,9)	△	会議資料の資料の事前配布と情報共有。委員会の活性化による諸問題の共有と解決方法の検討。		
	学校関係者の意見		・多くの事業を推進してくれています。教職員に過度な負担がかからないよう、地域の方々に相談してください。協力します。 ・ウィズコロナに向けた今後の計画が重要です。地域と連携し取り組んでいきましょう。 ・特定の先生に業務が集中しがちですが、学校全体でカバーして生徒の活動をサポートして欲しい。			
G 教職員の資質向上	■有用な研修テーマを全体で設定し、計画的かつ効果的な方法で全体研修会を実施できたか。	B (2,8)	△	今後の教育情勢を見据えた研修を実施し、教職員全体で積極的な研修を実施し、充実を図る。	A	A
	□新教育課程の実施に向け、教科や系列において学習指導の方法や評価方法について検討が行われ、具体的な改善がなされたか。	B (2,8)	△	学習評価に係る教員研修の実施。基礎科目の指導強化と朝学習時間の充実。		
	□各自が研修課題を設定し、外部研修への参加やOJT等による自己研鑽を積むことができたか。	B (2,7)		研修案内を教職員に情報提供をして、積極的な参加を促す。		
	□教育公務員として高い倫理観と服務規律遵守の意識を持続し、同僚性により啓発し合うことができたか。	A (3,3)		職員間でのコミュニケーションを図り、情報共有と信頼関係の構築を図る。		
	学校関係者の意見		・教職員の研修はスキルアップにはかせません。全体、個人問わず機会を見つけて実施していった欲しい。 ・研修講師は、外部の専門家やオンラインでの研修を頼って良いと思います。 ・教職員の皆様には、地域発展のために生徒と十分な協力をいただいている。今後も継続してほしい。			